

月報

神戸市感染症情報

〈報告〉2016(平成28)年感染症患者発生状況
神戸市における感染症の動向

20巻2号(No.220)

2017年2月発行

神戸市感染症情報対策委員会

事務局 神戸市保健所予防衛生課

〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1

Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

〈報告〉2016(平成28)年感染症患者発生状況

2016年の届出・報告疾患の特徴

1. 全数把握対象疾患

一類感染症:届出はなかった。

二類感染症:結核は402例の届出があった。神戸市の新登録患者数は減少傾向にあるが、罹患率は全国平均より高い水準が続いている。また、他疾患の治療に伴う潜在性結核感染症が近年増加傾向にある。

三類感染症:腸管出血性大腸菌感染症34例のうち2例はHUS発症、9例が無症状で接触者検便や職場の定期検便で探知された。細菌性赤痢1例は海外渡航歴があり(インドネシア)、菌種はB亜群であった。

四類感染症:レジオネラ症22例は過去最多であり、すべて尿中抗原検査による診断であった。デング熱5例は2015年同様すべて海外渡航例であった(インドネシア・マレーシア・ナイジェリア・シンガポール)。

五類感染症:急性脳炎36例、侵襲性インフルエンザ菌感染症7例(うち予防接種歴あり2例)、侵襲性肺炎球菌感染症66例(うち予防接種歴あり25例)、梅毒58例はいずれも過去最多であった。急性脳炎は届出の時点で病原体が判明していたものはインフルエンザウイルス9例、RSウイルス1例、単純ヘルペスウイルス1例、ロタウイルス1例で、残り24例は病原体不明であった。近年、国内の梅毒患者が急増しており、特に20代の女性患者の増加が顕著であるため先天梅毒の増加が懸念

される。風しん4例(すべて検査診断例)、麻しん1例(中国への渡航歴あり、遺伝子型H1)、侵襲性髄膜炎菌感染症1例(血清群B群、遺伝子型ST2057)の届出があった。

2. 定点把握対象疾患

(1)インフルエンザ定点(48カ所)

2015-16シーズンの流行入りは、12月上旬に流行入りした2014-15シーズンより3週遅かったが、それ以前のシーズンとはほぼ同様の傾向であった。流行期の患者届出数は14,238人で、過去5シーズンで2番目に多かった。2016年第7週(2/15~2/21)には定点あたり患者数が40.4人となり、流行のピークを迎えた。40人を超えたのは2009年の新型インフルエンザ発生後初めてである。

A/H3N2とB型(山型系統)のみが検出された2014-2015シーズンと異なり4種類のウイルスの混合流行となった。流行初期にはA/H1pdm09が最も多く、2月以降はB型(山型系統)の占める割合が徐々に増加した。一方、A/H3N2やB型(ビクトリア系統)もシーズンを通して検出されており、複数回インフルエンザに感染した事例もみられた。

(2)小児科定点(31カ所)

流行性耳下腺炎2,024例、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎2,132例は過去15年間で2番目に多かった。国内では2010年以来となる流行性耳下腺炎の流行がみられたが、神戸市も同様の状況であった。1年を通して発生がみられる感染性胃腸炎は11,509例で例年と同程度であった。

(3)眼科定点(10カ所)

急性出血性結膜炎3例、流行性角結膜炎117例、いずれも例年よりやや少なかった。全国における流行性角結膜炎のここ数年の主な原因はアデノウイルス3、19、37、54、56型である。

(4)性感染症定点(12カ所)

対象4疾患すべて例年と同程度であった。近年、淋菌感染症の薬剤耐性化の進行が問題になっている。

(5)基幹定点(3カ所)

マイコプラズマ肺炎48例は過去15年間で3番目に多かった。その他の疾患については、

例年と同程度であった。

(6)疑似症定点(66カ所)

昨年届出はなかったが、今年は1例の届出があった。中国への渡航歴があり、原因不明の発熱及び発しんを呈し、全身状態が悪化し、救急搬送された事例であった(鑑別診断として麻しん・風しんはIgM抗体検査で陰性)。

本届出は新型インフルエンザ等を想定した原因不明の重症の感染性呼吸器疾患及び感染性皮膚疾患等の発生動向を把握することを目的としている。

<事務局>

インフルエンザ・小児科・眼科定点(週報)患者報告数

	28年	27年	26年	25年	24年
インフルエンザ	15,642	9,017	13,599	9,692	15,441
RSウイルス感染症	606	906	640	643	638
咽頭結膜熱	503	606	840	547	488
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2,132	2,699	1,468	1,076	1,431
感染性胃腸炎	11,509	11,777	10,961	13,026	14,978
水痘	683	775	1,493	1,589	1,756
手足口病	455	3,569	284	2,254	122
伝染性紅斑	426	625	243	55	200
突発性発しん	582	662	723	714	773
百日咳	16	17	9	2	7
ヘルパンギーナ	1,050	670	1,387	797	1,219
流行性耳下腺炎	2,024	329	420	199	331
合計	35,628	31,652	32,067	30,594	37,384
急性出血性結膜炎	3	9	4	12	12
流行性角結膜炎	117	223	172	141	103
合計	232	232	176	153	115

基幹定点(週報)患者報告数

	28年	27年	26年	25年	24年
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)	12	10	11	5	0
無菌性髄膜炎	10	19	16	28	6
マイコプラズマ肺炎	48	34	1	5	10
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	12	29	3	0	0
合計	82	92	31	38	16

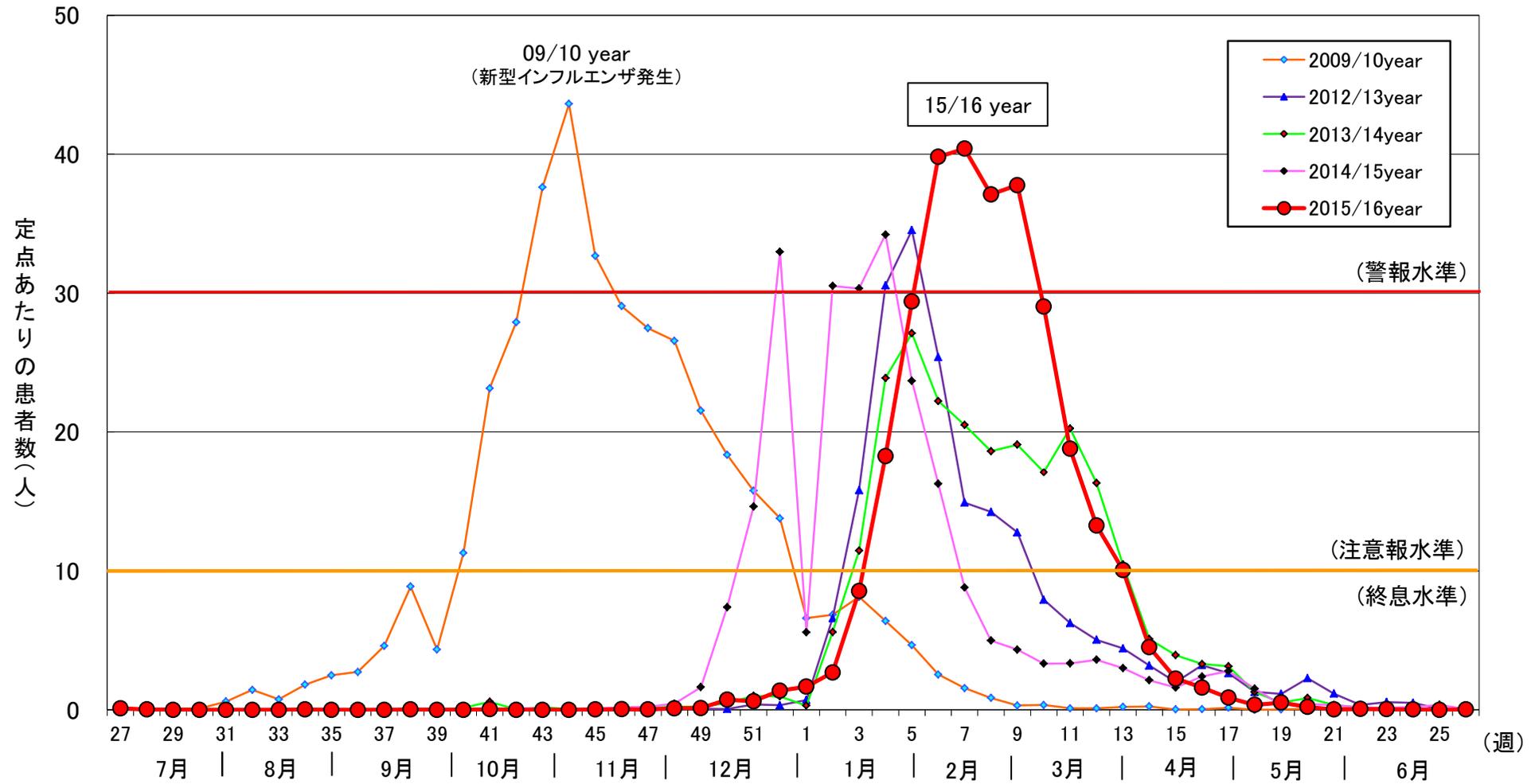
基幹定点(月報)患者報告数

	28年	27年	26年	25年	24年
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	59	80	85	84	124
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	45	42	47	100	29
薬剤耐性緑膿菌感染症	5	0	2	0	0
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	2	0	0
合計	109	122	136	184	153

性感染症(STD)定点患者報告数

	28年	27年	26年	25年	24年
性器クラミジア感染症	228	206	243	261	238
性器ヘルペスウイルス感染症	78	82	85	98	89
尖圭コンジローマ	39	51	48	49	26
淋菌感染症	67	76	93	104	106
合計	412	415	469	512	459

定点あたりのインフルエンザ患者報告数



神戸市感染症発生動向調査月報

2017年1月受診の患者数報告

総報告定点数 12ヶ所
総設置定点数 12ヶ所

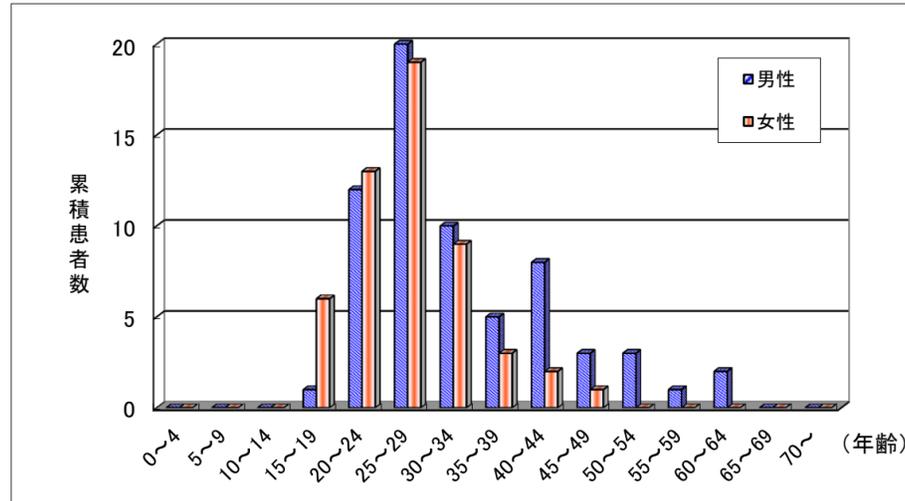
神戸市感染症情報センター

STD定点情報 (1月患者)		患者年齢層															
病名	性	0~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~	合計
性器クラミジア感染症	男					3	2	2		1		1					9
	女				2	4	6	2									14
性器ヘルペスウイルス感染症	男								1				1				2
	女						2		2	1	2					1	8
尖圭コンジローマ	男									2							2
	女																
淋菌感染症	男					1	3	2		1				1	1		9
	女					1											1

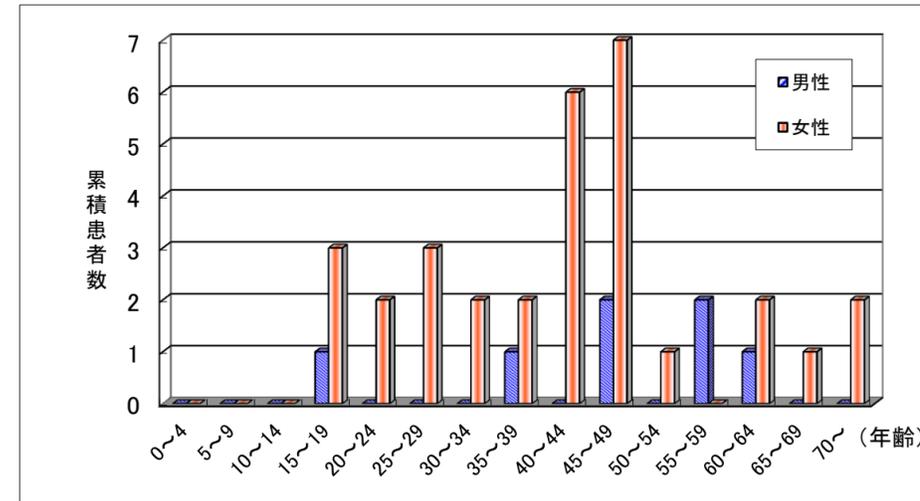
<その他の感染症情報>

直近6か月間の累積患者報告数 (2016年8月~2017年1月)

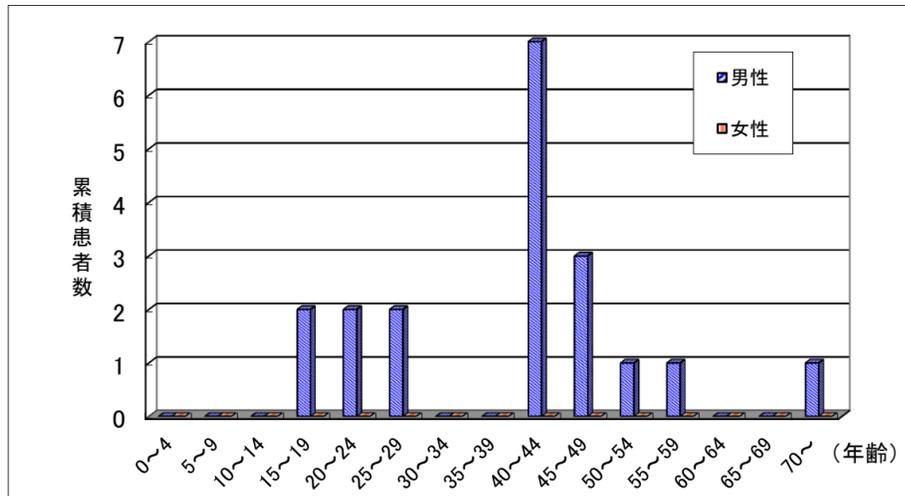
1. 性器クラミジア感染症



2. 性器ヘルペスウイルス感染症



3. 尖圭コンジローマ



4. 淋菌感染症

